

防災

いざというときに備えて地域で家庭で考えよう。

9月1日は「防災の日」です。

1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんだもので、その大惨事を忘れないため制定されました。この日をきっかけに防災対策を進めましょう。

！ 震災時に発揮された地域の力

大規模な災害では、道路の損壊や同時に多発する火災等への対応から、消防をはじめ公的な防災関係機関の活動能力は著しく低下します。

1995年に発生した阪神・淡路大震災では、倒壊により閉じ込められた人のうち、約8割が家族や近所の住民によって救出、場所によっては約98%は地域住民によって救出されたという調査結果もあります(右表参照)。被害を少しでも小さくするために大きな力となるのは、「自分の身は自分で守り、家族や地域で助け合う」ことです。

◆生き埋めや閉じ込められた時の救助

自力で	家族に	友人・隣人に	通行人に	救助隊に	その他
34.9%	31.9%	28.1%	2.6%	1.7%	0.9%

97.5%

※(社)日本火災学会:「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」による

！ 災害に備えて、今、私たちにできること。

今 自分や家族でできること

● 防災知識を身につけましょう

新聞、テレビ、ラジオ、インターネット等から、防災に関する情報を収集し、知識を身につけておきましょう。また、日ごろから防災訓練に参加するなど、防災行動力を高めおきましょう。

● 市民安全メールに登録しましょう

気象警報や避難情報などの市の防災情報のほか不審者情報など、安全安心に関わる情報を、あらかじめ登録いただいたみなさんの携帯電話やパソコンにメールで配信しています。

登録は、市ホームページか右記二次元コードからできますので、ぜひご登録ください。



今 地域でできること

● 自主防災組織をつくりましょう

自主防災組織とは、地域の人が自主的に協力しあって、防災活動を行う組織のことです。

大災害が発生すると、行政では十分な対応ができない場合があります。このような時、自主防災組織は、隣に住む人の確認や救出、初期消火活動など、より細やかに、そして被害の拡大を防ぐという重要な対応を行うことができます。

阪神・淡路大震災の被害を教訓に、「自分たちの地域は自分たちで守る」という観点から自主防災組織の重要性が見直され、全国的にも結成数は増加傾向にあります。

市内でも、すでに多くの自治会が自主防災組織を結成しています。市では、結成後には、世帯数に応じて活動費用を一部補助しています。

結成方法等は、市民安全課に相談してください。



お知らせ

地域の安全安心を守る「消防団」の訓練を見学しませんか？

東日本大震災では多くの消防団員が活躍したように、災害時には消防団の役割も大変重要になっています。大和郡山市では、消防団が地域防災の中心となるべく、日々訓練に励んでいて、今後は自主防災組織との組織同士の連携など、さらなる地域防災力の向上を目指しています。

今月は3日間にわたって、消防団員の教育訓練を実施。毎年内容を変え、いずれも現場を意識した実践的な内容となっていて、昨年は消防車を使用し、火災発生から現場到着、放水、消火に至るまでのロールプレイング方式の訓練を実施しました。

消防団活動や消防車・消防資機材に興味のある人はぜひ見学にお越しください。

日時=9月4日(日)・11日(日)・18日(日) (午前の部)9時~12時・(午後の部)13時~16時

場所=大和郡山消防署(本庄町)

ホームページもぜひご覧ください！

[大和郡山市消防団へようこそ](#)

検索



問合せ=市民安全課(内線629)